

2020年度福岡県ノーマリフティングケア普及促進事業がスタートします！！

その事業を、本 NPO が受託することが決定。

推進事業では、福岡県内を福岡・北九州・筑後・筑豊の4つの地域に分けて、各地域から3施設を公募・選出。これら施設の研修を促進し、各地域のモデル施設に育て上げる。

全国版 シルバー産業新聞に

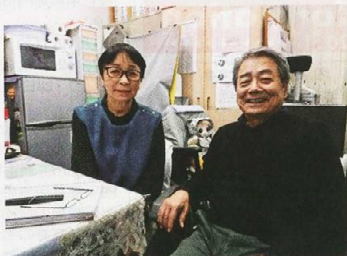
2020年1月10日発行

NPO 福祉用具ネットの活動 が取り上げられる。

業新聞

2020年(令和2年)1月10日(金曜日)

ヒューマン製造中止
2017年秋、介護保険の
レンタル対象の尿吸引ロボ
「ユニマニ」(ユニチャ
ムヒューマニ)が製造中
止になった。開発支援に積極
的に取り組んだNPO福祉用
具ネットの大山美智子さん



福祉用具をつなぐ大山さん(左)、坂田さん

「ユニマニ」は状況が打
破せず製造中止に追い込ま
れた。
同ネットものづくり支援セ
ンター長の坂田栄一さんは、
九州日マックスがヒューマ
ニの開発を担った技術者
だった。「事業になる数字の
桁が専らです」と坂田氏は

「最初から完璧な
ものはない
「最初から完璧なものはない
りません。電気力ミソリは1
00年前に開発されました
が、今も改良が続けられてい
ます。用具は開発から製造・
流通・販売・利用まで、切磋
琢磨されてより良いものに育
つのです。また、生活歴にな
い福祉用具の場合、利用者は
用具を使うことに時間もかか

あることを現場が
知らない
17年度の「ささえ」が医療福
祉連携機関「実証ネット
フーズ」事業で、1500の
県内の介護施設・事業所の
ニーズ調査が実施された。介
護現場から用具に関する要望
が数百件寄せられた。大山事
務局長は、「しかし、そのお
よそ85%がすでに製品化され
ていたのです。」「現場が
製品のあるのを知らない。ケ
アマネジャーも知らない人が

は、自身のフロッ
で、要困をこつ
づつしている。一介
護で一番大変なの
が排泄ケアです。
現場では、うまく
使えなかった。一
番の原因は、おむ
つの当て方。製品
は使いやすく作ら
れていますが、取り
扱いが苦しみと
が多かったのだ
です。」「メーカーは状況が打
破せず製造中止に追い込ま
れた。
同ネットものづくり支援セ
ンター長の坂田栄一さんは、
九州日マックスがヒューマ
ニの開発を担った技術者
だった。「事業になる数字の
桁が専らです」と坂田氏は

「最初から完璧な
ものはない
「最初から完璧なものはない
りません。電気力ミソリは1
00年前に開発されました
が、今も改良が続けられてい
ます。用具は開発から製造・
流通・販売・利用まで、切磋
琢磨されてより良いものに育
つのです。また、生活歴にな
い福祉用具の場合、利用者は
用具を使うことに時間もかか

1998年設立の福岡県立大学福祉用具研究会が、2002年にNPO福祉用具ネットとして独立した。メーカーの福祉用具の開発や販路開拓などに関わり、20年の歳月が経った。メーカーは多額の資金を投入して開発に注ぎ、製造・流通は多様なニーズに合わせて用具を販売・レンタルし、介護現場はしっかりと用具を根付かせ、利用者が目のために用具を使う。そうした中で活動してきた大山美智子事務局長(看護師、)とものづくり支援センター長の坂田栄一(副理事長、)にお話を聞いた。

大切な教育&マネジメント力

NPO 福祉用具ネット

記事の詳細は、

NPO 福祉用具ネットのホームページからご覧いただけます。

<http://npofukusiyougu.sakura.ne.jp/202001katudoukiji.pdf>

尚、本記事中の名前の訂正
大山美智子⇒大山美智江

多い。知っているのと知らないのではまったく違つ。同ネットが身を寄せる福岡県立大学は看護師や介護職を養成するが、その先生たちも福祉用具に対する理解がまだまだという。医療介護の専門職を養成する教育に福祉用具が溶け込んでいないと感じるという。

リハビリ職のOTやPTは、身体や病気がわかる福祉用具の専門家としての役割が期待されるが、「国家試験に福祉用具は高度程度しか出題されないため、勉強の順番が後回しになつてしまふ」と話す。

技術認定プロジェクト試験

NPOでは3月に福祉用具の技術認定プロジェクト試験を実施する。今年3回目です。これまで49人が合格した。試験では、フレッシーション能力など、医療介護現場で用具導入のマネジメント力を含む10項目が問われる。道具を使った介護技術を伝える力を重視する。

「車いすに、月200、300円で着脱できるアームサポートやフットサポートを付けることができる。これらを使うことで車いすの乗り降りがたいへん楽になる。リフトが使われている施設では、妊娠している職員でも移乗介助ができる。一方で、血行障害のおそれがある円座が医療や介護現場で依然使われている例もある」とも。

「私たちは、利用者を企業と介護現場、教育機関、行政などつなぐ接点の役割をしています」とお二人は結んだ。

毎年秋に福岡県北九州市で開催される「西日本国際福祉機器展」に同校の卒業生が見学に行き、用具の説明を受けて、見て、使う。この経験がたいへん評判がよい。看護学部先生の福祉用具に対する関心も上がってきまして、大山事務局長。



開発支援に携わった「きのこグリップ」